

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒一人ひとりが「学び」を通じて自己肯定感を醸成し、将来の自己実現のためのスキルを身につけられるよう「基礎学力の定着と専門的な知識・技能」を高め、地域社会での学びを深めるとともに、地域と連携し実学を重視した教育活動を行うことで「地域社会に貢献できるビジネスパーソン」「超高齢化社会を支える介護・福祉分野のプロフェッショナル」を育成する。さらに、両学科の特性をいかし、地域社会の課題に取り組む課題探究型学習を通じて少子高齢化社会に対応した持続可能な社会の創り手を育む教育の推進をめざす。 (1) 高校生活のあらゆる機会を通じて教養を深め、豊かな情操を養う。 (2) 学習の基礎・基本を大切にし、専門知識を身につけ資格の取得を推奨するとともに、マナー教育を徹底し人間尊重の精神と態度を養う。 (3) 自己の進路への自覚を深め、目標に向かい自主的に努力する態度を養い、生涯学習の観点から自己教育力を身につける。
--

2 中期的目標

R4 生徒の真の学力を育む淀翔プロジェクト～資格取得だけに留まらない持続可能な社会の創り手をめざして～ 令和4年度に「学校経営推進費」の認定を受けた。「生徒の真の学力を育む淀翔プロジェクト」～資格取得だけに留まらない持続可能な社会の創り手をめざして～ 短焦点液晶プロジェクターを商業科3年生5クラス、福祉ボランティア科1～3年生3クラス（既設プロジェクターをゼミ室に移設）に設置。インターフェイスボックス設置。マグネットスクリーン購入。費用 2,587,200 円 1. 資格取得率 (1) 商業科では卒業時に、全商簿記検定2級、全商情報処理検定（ビジネス情報部門）2級の取得率をそれぞれ70%以上、会計コース全商簿記検定1級の取得率を20%以上とする。 (2) 福祉ボランティア科では介護職員初任者研修100%、国家資格介護福祉士取得率を95%以上とする。 2. 心豊かな職業観を育む体験学習 (1) 生徒アンケートによる「販売実習（介護実習）を通じて、ビジネス（介護福祉）に関する仕事の魅力を理解することができた」の肯定的回答率70%以上をめざす。 3. 持続可能な社会の創り手を育む教育（ESD） (1) 連携団体や地域企業、行政などのステークホルダーによる「社会的価値がある活動である」の肯定的回答率70%以上をめざす。 4. 3年間の研究成果について他校への発信・普及 (1) 公開授業・実践報告会の実施、HPでの発信および他校への指導助言
1. 確かな学力の定着と学びの深化 (1) 授業改善に取り組み、学習の基礎基本となる資質や能力の定着をはかり、「確かな学力」を確立する。 ※ 目標：授業アンケート「(項目8)興味関心」の肯定的回答率について75%以上（R3 70.9%、R4 77.3%、R5 75.8%）を維持する。 ア 授業改善のための指針として常にPDCAサイクルを活用し、「わかる授業」「魅力ある授業」を構築する。 イ 教員自らが研究や研修活動を推進し、授業の質の向上をめざす。 ウ 授業アンケートの結果に対して分析を行い、問題点を明確にして授業改善に取り組む。 (2) 主体的・対話的で深い学びを実践し主体性を養うとともに、現代的な諸課題に対して求められる資質や能力、知識や技能を育成する。 ※ 目標：授業アンケート「(項目2)知識技能」の肯定的回答率について75%以上（R3 73.4%、R4 79.1%、R5 77.2%）を維持する。 ア あらゆる教育活動に主体的、対話的な活動を組み入れ、思考力、判断力、表現力を養い、積極的に自己のキャリア蓄積にいかす。 イ 観点別評価により学習の過程や成果を評価し指導の改善や学習意欲の向上をはかるとともに、生徒の資質、能力を育成する。 ウ 1人1台端末の導入により、ICT機器を活用した効果的な授業実践に取り組む。 2. 教育活動の充実と地域連携、地域貢献を主体とした産業を支える人材の育成 (1) 職業観と知識・技能を兼ね備えた人材を育成する。 ※ 目標：生徒アンケートによる「販売実習（介護実習）を通じて、ビジネス（介護福祉）に関する仕事の魅力を理解することができた」の肯定的回答率を70%以上に維持する。（R4 70.3%、R5 80.7%） ア 商業科では、習得した基礎的な知識をもとに、各コースに応じた専門的知識や技能を身につける。 ※ 目標：日々の授業や実習を通して、ビジネスにかかわる専門的知識や技能を身につける。 イ 福祉ボランティア科では「介護を必要とする幅広い利用者に対する専門性の高い介護を提供できる能力」を身につけ、国家資格である介護福祉士の資格取得をめざす。 ※ 目標：日々の授業や実習、施設実習を通して福祉に関する知識や技能を身につけ、介護職員初任者研修、国家資格介護福祉士の資格取得に臨む。 ウ ICTを活用した「主体的な学び」を効果的に取り入れ、さまざまな学習形態を組み合わせることにより、生徒の学びの深化を図る。 エ 販売実習や介護実習での体験的な学習を通じて、働くことの本質に気づき、心豊かな職業観を身につける。 (2) 課題探究型学習に取り組み、未来を担う人材を育む教育を推進する。 ※ 目標：連携団体や地域企業、行政などのステークホルダー（外部評価）による「社会的価値がある活動である」の肯定的回答率を70%以上に維持する。（R4 75.0%、R5 78.0%） ア 学校設定科目「アントレプレナーチャレンジ」を通じてソーシャル・アントレプレナー（社会起業家）の育成をめざす。 イ 健康と福祉の視点から、いつまでも住み続けられるまちづくりに向けた創り手としての人材の育成をめざす。 ウ ICTを活用して「ビジネス社会とつながる」「地域福祉とつながる」ための教育実践に取り組む。 (3) ビジネスや福祉に関する特色ある教育活動を情報発信し、地域への理解や関心を深め「地域に愛される淀商」をめざす。 ア 体験入学や学校説明会を充実させるとともに、ホームページ等を活用し学校の情報を発信する。 イ 高齢者施設での介護実習やボランティア活動を通じて地域密着型の学校をめざす。 3. 将来をみすえた自主性・自立性の育成 (1) 生徒の指導体制を確立し、教育活動のあらゆる機会を通じて社会人基礎力を育成する。 ア 基本的生活習慣を確立し、規律ある行動ができる社会性豊かな生徒を育成する。 イ 生徒会活動を活性化し、淀商フェスティバル（体育祭、文化祭行事）などの体験的活動を充実させる。 (2) 自主性や自立性を育む進路指導の推進 生徒一人ひとりの希望進路の実現に向けて自ら目標を立て挑戦し続ける態度を養う。 ※ 目標：就職については、一次内定率70%以上（R3 67.5%、R4 75.0%、R5 83.8%）、最終的には就職希望者100%（R3 100%、R4 100%、R5 100%）の内定獲得を実現する。進学希望者については進学最終合格率 100%（R3 100%、R4 100%、R5 100%）をめざす。 ア 進路希望調査をもとに個別面談を実施し希望進路の把握に努めるとともに、保護者説明会を定期的に開催し家庭の協力体制のもと必要な支援を適切に行う。 イ 就職希望者については応募前職場見学に参加し職種や会社等の実態を事前に把握するとともに、就職試験、面接選考試験への準備と心構え、労働の意義を学ばせる。 ウ 進学希望者については学習の基礎、基本を大切にし、3年間で取得した資格や専門知識を推薦入試等に活用し合格をめざす。 4. 豊かな心と健やかな体の育成 人間尊重の教育に充実を図るとともに生徒一人ひとりの個性と能力を伸ばし、自立できる人材を育成する。 ※ 目標：生徒向け学校教育自己診断の肯定的回答率で、「一人ひとりの適性に応じた指導がなされている」を75%以上（R3 78.2%、R4 79.8%、R5 75.5%）、「先生は子供の悩みや相談に親身になって応じてくれる」を75%以上（R3 79.5%、R4 80.6%、R5 77.0%）に維持する。 ア すべての教育活動を通じて人間尊重の精神と態度を養い、豊かな心を育む教育を推進する。 イ お互いを尊重しながら個性豊かな文化の創造をはかり、未来を切り拓く主体性のある人材を育成する。 ウ 支援学校と学校行事、生徒会行事を通じて交流し、お互いを尊重する人間性や社会性を身につける。

5. 力と熱意を備えた教員と学校組織づくり (1) 校内外の教職員研修を効果的に活用し、人材育成を図る。 ア 教員のスキルアップを図るためテーマ別の研修会を開催する。日々の研究に努めるとともに、指導力の向上を図る。 イ 教職員研修を効果的に活用し、継続的な人材育成に取り組む。 (2) 教職員が自らの資質や能力の向上を図るため、働き方改革を推進する。 ア 時間外勤務時間の縮減のため、教職員への啓発と意識改革を図る。 イ 業務のスリム化やさまざまな方策による働きやすい職場環境づくりを推進する。
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和6年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
【学校満足度】 - 生徒、保護者（項目1）（項目2） 教科指導、学校行事等、すべての教育活動を総括した学校の満足度においては生徒「学校生活は楽しい」の肯定的回答率が79.1％、保護者「子どもは学校生活を楽しんでいる」87.3％ 昨年の生徒79.1％、保護者88.7％とほぼ同様の結果となった。 学校における教育活動の取組のどの部分に課題があるか検証し次年度に繋げたい。 また、生徒「淀商に入学して満足している」の肯定的回答率が65.4％、保護者「淀商に入学させて良かったと思う」は87.5％で、昨年の生徒65.2％、保護者88.0％と同様の結果であったが、生徒の満足度を上昇させるため、個々のニーズに応じた教育活動の展開に繋げたい。 【学習指導について】 - 生徒（項目3～5）保護者（項目3～4）教職員（項目4～5） 言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基礎基本となる資質や能力の定着を図るため、生徒1人1台端末等ICTを活用した授業を充実させ、生徒が「わかる授業」「魅力ある授業」の実現をめざした。 生徒「授業の内容はわかりやすい」の肯定的回答率が74.4％で、昨年の生徒74.6％と同様であった。保護者「子どもは学校での授業の内容を理解している」は82.0％で、昨年の82.9％を下回った。次年度についても「わかる授業」に向け工夫を重ね、授業改善に取り組むたい。 生徒「先生は1人1台端末を効果的に活用している」の肯定的回答率が83.7％で0.8％昨年度を下回り、教職員「1人1台端末等、ICTを活用した授業を行った」は75.8％を示し、昨年度と同様であり、活用はある程度定着しているが、ICTを活用した効果的な授業法を教員間で検証し、共有することが必要がある。 生徒「グループでの対話や相談、ディスカッション等を活用する授業が取り入れられている」の肯定的回答率が80.8％、教員「主体的で対話的な深い学習を授業に取り入れている」は78.5％で、この授業実践が真の学力の充実につながるよう、継続して取り組んでいきたい。 【進路指導について】 - 生徒（項目8～10）保護者（項目7～10）教職員（項目11～12） 将来の自己実現に向け、必要な学習や資格取得に挑戦し続ける意識を育成し、専門的な知識や技術が身につくよう、生徒の進路指導に当たった。 生徒「資格取得に熱心に取り組んでいる」の肯定的回答率が生徒81.3％、保護者80.4％を示しており、生徒、保護者とも昨年度と同様の割合であった。ともに肯定的回答率が80.0％を超え、専門高校として、必要なスキルを高校の学習で身につけることが、将来の進路や仕事に必要なものだと認識し取り組んでいる。また、進路指導に対する学校の姿勢に対する項目では、「一人ひとりの適性に応じた進路指導がなされている」の肯定的回答率が生徒74.9％（R5 75.5％）、保護者79.0％（R5 79.0％）。「学科や進路に関する情報が的確に提供されている」は生徒83.0％（R5 82.9％）、保護者74.8％（R5 80.2％）で、保護者数値において若干の減少が見られる。今後、進路指導の情報提供を充実させ、連携を深めていきたい。 教職員向け学校教育自己診断では「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」の肯定的回答率が75.9％、「将来の進路が生き方などについて情報提供し、生徒に考えさせる指導を行っている」は76.7％で、進路指導部、3学年担任を中心に生徒の進路について取組み、その成果が生徒や保護者向け学校教育自己診断に反映されている。 【生徒指導・生徒相談について】 - 生徒（項目11・12・19・20）保護者（項目11～14）教職員（項目13～15） 教育活動のあらゆる機会を通じて人間尊重の精神と態度を養い、豊かな心を育む教育の推進に努めてきた。生徒「先生は自分の悩みや相談に親身になって応じてくれる」の肯定的回答率が76.7％（R5 77.0％）、保護者81.5％（R5 81.5％）、昨年度から実施の項目で生徒「先生はいじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」が80.1％（R5 80.1％）、保護者も83.3％（R5 80.1％）で、いじめは発生した場合の観点からするとより高い信頼度へ向けて来年度も取組みを進めていきたい。 生徒「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」が89.7％（R5 89.7％）、保護者90.0％（R5 90.2）％の非常に高い肯定的回答率があった。外部講師による講習会や教員による日々の対応に生徒、保護者が信頼を寄せていただいており、継続して取組みたい。また、生徒「基本的な生活習慣が確立できている」の肯定的回答率が76.2％（R5 76.6％）、保護者85.4％（R5 85.9％）で、今後も、基本的な生活習慣の確立に意欲を持って取組む生徒が。朝の挨拶運動や生活指導部の地道な指導の効果が現れてきており、来年度も指導を継続する。 【生徒会指導について】 - 生徒（項目14・18）保護者（項目15～17）教職員（項目10） 生徒「学校行事は有意義で楽しい」肯定的回答率82.6％（R5 82.6％）、保護者92.2％（R5 92.1％）であった。生徒会活動の取組みについて、高い数値であり、生徒や保護者にとっては単に楽しいという訳ではなく、自分の将来にとって、生徒会行事での体験は役に立ち有意義なものだと感じている。生徒会を中心とした取組みは、全生徒の意欲に大きな変化や成果をもたらした。生徒会執行部の取組みを引き続き継続することを今後の学校行事への課題として取り組みたい。	【第1回 令和6年6月20日（木）】 - 学校経営計画には、教育に関わる内容が満遍なく網羅されている。 - 授業見学の際、調べ学習や発表で1人1台端末を上手く活用している様子が見られた。 1年生の情報処理では、入学してから2カ月程度であるにも関わらず、習熟度が非常に高いのではないかと感じた。これを機会に、情報処理検定3級にチャレンジし、合格することで興味・関心を高めていき、上位級をめざす、さらには、他の検定にもチャレンジしてもらいたい。 - 人前で自分の考えをしっかりと人に伝えるというプレゼン力は、将来的にも重要である。特に、商業科だけが行うのではなく、全ての教科・科目で、生徒のプレゼン力を高める授業展開を実施してもらいたい。 - 小学生を対象に8月にチャレンジキャンプを行うというのは、良い取り組みであると思う。生徒も目的意識をしっかりと持ち取り組むことが、前向きに活動しようとする意識につながる。「淀翔モール」についてもこのような観点で、実施していただきたい。 - 学校の美化に関して、外部から来られる方（保護者、地域、企業など）は、このようなところを見ている。会社では、企業イメージにもつながるため、特に力をいれている。 - 生徒が就職する際に、社会に出て役立つことを実践している授業が多くあった。生徒の将来を考えるうえで、高校在学中にこのようなことを学ぶことは大きなことだと思う。 - 中学生で高校を選ぶ基準に、この学校の魅力は何かに注目した。淀商には「淀翔モール」、DX、資格取得など多くの要素があり、特色をアピールしていくべきである。 - 中学校では学ばない専門科目については、スタート地点は全員同じであるということも、特徴の一つである。 - 大学等へ進学希望が増加傾向にある中、そのためには、どの資格を取り、どの程度の成績が必要なのか、どうすればその大学に行くことができるのかなど、大学ごとのモデルを示した方が、生徒の目標が具体化し、めざしやすくなる。 - 大学に進学した卒業生や就職した卒業生からの生の声を聞ける機会があれば、生徒にとっても将来のイメージが膨らむ。 【第2回 令和6年12月14日（土）】 - 今年度の「淀翔モールは」、店舗数も多く充実した内容のイベントであった。生徒に商品に対する質問をしたところ、しっかりとした応対で説明していた。これほどの規模のイベントが、10年程度の期間で実施できたのは素晴らしい、淀商の強みである。 - 生徒にとって、淀商業高校に在籍していることに、胸を張り、誇りを持ってよいと思う。単に学校のイベントとして地域の公的機関や企業などが協力することにより、地域のイベントとして立派なものとなっている。 - 地域や企業の方、中学生が学校行事に参加してよかったと感じていただければ、次回の参加にも繋がり、生徒の募集にもつながる。 「淀翔モール」は、学習の場であるため、振り返りを行うとともに、決算報告や地域への影響の報告など、さらに、生きた学習の場としてほしい。 - パンフレットでは、どこで何を販売しているのかわかりにくかったが、校舎に設置されたモニターを見るととても分かりやすかった。商業を学ぶにあたって、顧客意識を持つ姿勢を教育することは大切になる。 - 美化活動として、特に植栽管理は大切なものである。生徒たちの学ぶ環境を整えていくことは学校としても重要である。植木が軒並み枯れているような環境は、生徒の心の乱れにも繋がりがかねない。ぜひ、整備に向けて取り組んでいただきたい。 - 校内の生徒指導における注意書きなどのポスターについて、白黒で見にくく理解しづらいものであった。視覚的に目立たせることが必要であり、生徒に対してインパクトを与えることができる。 - これからの後方については、紙媒体だけでなく、SNSなどネットワークの活用をより進めるべきである。それを楽しみにしている若者も多いと感じている。 - このような地域向けのイベントを実施し、淀商を知っていただくことで、外部からのクレームも少なくなった。さらには、地域から愛される、応援していただけるような学校づくりをお願いしたい。 【第3回 令和7年2月25日（火）】 - 授業のICT活用について取り組みは進んでいるようだが、活用することが目的ではなく、その後の生徒の理解が深まったかなどの、フィードバックを検証し、今後に生かす必要がある。 - 教員間の授業見学について目標を達成していないが、見学しやすい環境を整える必要があるのではないかと。 - 小学校では、教員間の授業見学を行うことは日常的にあり、そこが高校とは違う環境にある。高校でも、もう少し見学できるよう、教員の意識改革が必要ではなか。 - 検定試験の合格率は高くはないが、結構高度な検定が対象であるため、そこまで悪い状況でない。受験した検定の内容がどこまで生徒が理解しているのかが重要である - 保護者の授業参観の出席率も良くなく、学校への関心も低下しているのではないかと。保護者に学校の取り組みや考えを理解していただくよう、連携を深める必要がある。 - 学校の広報については、取り組んでいると思うが、学校が思うように中学生やその保護者に伝わっていないのではないかと。進路指導についても面接練習等を繰り返しているとは思いますが、進路先が就職よりも進学する生徒も増加している中で、進学する際の面接指導にも力を入れてもらいたい。 - 学校説明会については、できるだけ中学生が参加しやすい、仕掛けが必要である。 - 学校に居場所があれば卒業まで、退学することなく続けられる。部活動もその居場所の一つであることから、多くの生徒が取り組めるようにしていただきたい。 - 遅刻者数が減少しているのはよいことだが、欠席者が増えては意味がない。生徒が、できるだけ積極的に登校できる雰囲気や環境を作ってもらいたい。

府立淀商業高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標		今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
生徒の真の学力を育む淀翔プロジェクト （資格取得だけに留まらない持続可能な社会の創り手をめざして） R4		（１）ICTを活用した基本的かつ専門性の高いビジネス教育・介護福祉教育の指導方法の開発 （２）専門的知識や技術をいかして、心豊かな職業観を育む体験的な学習の研究 （３）ICT社会・少子高齢化社会に対応した持続可能な社会の創り手を育む教育（ESD）の実践	【ICT 社会・少子高齢化社会に対応した持続可能な社会の創り手を育む教育（ESD）の実践】 ・将来働くうえで必要となる資格取得の必要性を理解させると共に課題解決型の学習を通じて問題を読み解く力を身につけ、資格取得率の向上につなげる。 ・ICT 委員会が中心となり、ICT 機器やEdtechを活用した個別最適化された学びの研究と教員研修を実施（４月～３月） ・ESD 教育先進校に見学および校内報告会（情報共有）を実施（８月・９月） ・商業科では、西淀川区役所と連携して防災をテーマとした持続可能な社会に向けた課題探究型学習を実施（９月～12月） ・商業科では、ICT コンサルタントによる特別授業を通じてオンラインショップの開設（５月～２月） ・商業科では、ICT を活用したマーケティング調査に関する特別授業および西淀川区役所と連携して第10回淀翔モールの開催における集客率、顧客満足度、地域貢献度の前年度比120%以上をめざす。 ・福祉ボランティア科では、西淀川区社会福祉協議会と連携して持続可能な社会に向けた課題探究型学習を実施（９月～11月）および介護の日の啓発活動の開催（11月） ・福祉ボランティア科では高齢者の心豊かな生活を支えることをテーマとした教科横断型授業を実施 ・生徒アンケートの実施と評価および連携団体や地域企業、行政等のステークホルダーの評価（２月） ・３年間の総括として公開授業・実践発表会の開催および研究成果について他校への普及 ・３年間の資格取得率、生徒アンケート、ステークホルダーの評価結果を分析し、総括的評価を実施（３月）	1. 資格取得率 （１）商業科では卒業時に、全商簿記検定２級、全商情報処理検定（ビジネス情報部門）２級の取得率をそれぞれ70%以上、会計コース全商簿記検定１級の取得率を20%以上とする。 全商簿記検定 １級[R５:20.0%] ２級[R５:51.1%] 全商情報処理検定 ２級[R５:62.7%] （２）福祉ボランティア科では介護職員初任者研修100%[R５:100%]、国家資格介護福祉士取得率を95%以上[R５:97.1%]とする。 2. 心豊かな職業観を育む体験学習 （１）生徒アンケートによる「販売実習(介護実習)を通じて、ビジネス(介護福祉)に関する仕事の魅力を理解することができた」の肯定的回答率65%以上[R５:80.7%]を維持。 3. 持続可能な社会の創り手を育む教育（ESD） （１）連携団体や地域企業、行政などのステークホルダーによる「社会的価値がある活動である」の肯定的回答率70%以上[R５:78.0%]を維持。	1-(1)ICT を活用した授業を取り入れるなど授業の効率化と指導方法の工夫を試みた結果、全商簿記検定１級15.3%、２級26.1%、全商情報処理検定２級58.8%の取得率となった。将来の進路を見据えた指導方法の開発を重ねたい。(△) 1-(2)校内や施設実習での高度な介護技術や補習授業による知識の習得をもとに、介護職員初任者研修 100%、国家資格介護福祉士100%で目標を達成した。(◎) 2-(1)「販売実習(介護実習)を通じて、ビジネス(介護福祉)に関する仕事の魅力を理解することができた」の肯定的回答率82.2%、であった。主体性の育成に大きな活動であり来年度以降も改善と工夫を重ねる魅力につなげたい。(◎) 3-(1)地域企業や施設と連携した取組み、授業、実習等を実施した。外部評価では「社会的価値がある活動」に対し肯定的回答率が82.8%であった。引き続き連携を深め、地域の課題等について検証し、解決に向けた取り組みについて学びを深めたい。(◎)
1	確かな学力の定着と学びの深化	(1) 授業改善による「確かな学力」の確立	ア 授業改善	ア ・教員向け学校教育自己診断で授業見学を行った教員70%以上をめざす。[R５:57.2%] ・生徒向け学校教育自己診断の肯定的回答率「授業の内容はわかりやすい」70%以上を維持する。[R５:74.6%]	ア ・授業見学を行った教員の回答率は57.2%で前年度と同様であり、目標には到達しなかった。授業見学週間等設定の取組みを行いたい。(△) ・授業アンケートの肯定的回答率「授業の内容はわかりやすい」74.4%、引き続き授業改善に取組みたい。(○)
			イ 研修活動	イ ・保護者の参観数100名以上[R５:82名] ・研修会の参加10回以上[R５:19回]の参加。	イ ・授業参観参加者数62名(△) 昨年同様、平日に開催し普段の学習への取り組みを見てもらい意見をいただいた。 ・研修会への参加46回(◎)
			ウ 課題の明確化	ウ ・授業アンケートの結果や課題をフィードバックし詳細に分析することで、授業改善につなげる。	ウ ・授業アンケートの「興味関心」肯定的回答率は、75.8%で目標数値に到達し授業改善の成果は段階的にあがっている。(○)
			ア 思考力・判断力・表現力を身につけるための教科活動	ア ・全教科において、「主体的で対話的な深い学習」やプレゼンテーション、発表などを取り入れた学習を実践する。 ・さまざまな学習形態を実践し知識や技能を習得するとともに思考力・判断力・表現力を身につける。	ア ・プレゼンテーションなどの実践的な授業を行った。教育自己診断「主体的で対話的な深い学習を授業に取り入れている」の肯定的回答率は78.5%であった。(○) ・授業アンケート「知識技能」の肯定的回答率78.5%であった。(○) 思考力、判断力、表現力を高める教育活動を実践できた。
			イ 観点別学習による学習意欲の向上	イ ・単に定期試験での点数のみの評価ではなく、観点別学習による学習やレポート、発表等々、生徒の教育活動の成果をさまざまな角度から評価することで、生徒が努力した成果が見える化し、学習意欲の向上につなげる。	イ ・学校教育自己診断の「各教科の評価法（成績のつけ方）について理解している」肯定的回答率83.0%であり、評価について一定の理解が得られている(◎)
			ウ ICTを活用した授業実践	ウ ・教員のICTを活用した授業の実践率75%以上を維持する。[R５:75.8%]	ウ ・教員のICTの活用率は、昨年度と同様に75.8%であった。目標に到達してはいるが、今後はさらに活用が活発になるよう、研修会等を実施したい。(○)

府立淀商業高等学校

2 教育活動の充実と地域連携、地域貢献を主体とした産業を支える人材の育成	(1) 職業観と知識・技能を兼ね備えた人材の育成	ア ビジネスに関する専門知識・技術の習得	ア ・ビジネスマナーを学習し、実践に向けた外部講師による講義を実施するなど、社会人として必要な力を身につけさせる。 ・「アントレプレナーチャレンジ」において、起業のための知識を学び、体験型学習である大型販売実習「淀翔モール」での経験をいかし、よりよい職業観を育む。	ア ・オンラインでの講義を含め、外部講師による講義を3回以上実施する。[新規] ・生徒アンケート「販売実習を通じて、ビジネスに関する仕事の魅力を理解することができた」の肯定的回答率 70%以上をめざす。[R5 :66.7%] イ ・ICT を活用した実習発表を各学年に1回以上実施する。[R5 :6回] ・介護職員初任者研修合格率 100%を維持する。[R5 :100%] ・国家資格介護福祉士合格 95%以上を維持する。[R5 :97.1%] ウ ・生活支援技術の実習において、技術の向上を目標として5項目、5回ずつ合計 25 回以上タブレットを活用する。[R5 :25 回] エ① ・「淀翔モール」での生徒アンケートによる「仲間とともにより良い結果を出すための方法を考え、役割分担して取り組むことができた。」の肯定的回答率80%以上をめざす。[R5 :72.3%] ・福祉関連ブースを1店設置する。[R5 :1店] エ② ・生徒アンケートによる「介護実習を通じて、介護福祉に関する仕事の魅力を理解することができた」の2年生における肯定的回答率 70%以上をめざす。[R5 :94.6%] ・実習指導者アンケートによる「排泄介助・食事介助・入浴介助の基本的な介護技術を行うことができる。」の肯定的な回答率を3年生で 75%以上をめざす。[R5 :92.2%]	ア ・外部講師による講義を6回実施し、社会における企業の社会的意義や役割など幅広く視野で学習を進めることができた。(◎) ・生徒アンケート「販売実習を通じて、ビジネスに関する仕事の魅力を理解することができた」の肯定的回答率 82.2%であった。(◎) イ ・ICT を活用した実習発表を学年ごとに合計 6 回実施した。(◎) ・介護職員初任者研修合格率は 100%であった。(○) ・国家資格介護福祉士合格率は 100%であった。(○) ウ ・生活支援技術の実習において、タブレット等の ICT 機器を 25 回以上活用した。(○) エ① ・生徒アンケート「仲間とともにより良い結果を出すための方法を考え、役割分担して取り組むことができた。」の肯定的回答率は、73.6%であった。(△) ・福祉関連ブースを1店設置した。(○) エ② ・生徒アンケート「介護実習を通じて、介護福祉に関する仕事の魅力を理解することができた」2年生の肯定的回答率は 86.8%であった。(○) ・実習指導者アンケートによる「排泄介助・食事介助・入浴介助の基本的な介護技術を行うことができる」の3年生の肯定的回答率は 91.2%であった。(◎) 授業で培った介護技術を現場実習でも発揮することができた。
		ア ソーシャル・アントレプレナー(社会起業家)の育成	ア ・学校設定科目「アントレプレナーチャレンジ」を通じて、SDGs から地域課題に即したテーマを設定しビジネスを通じて課題解決に向けた探求型学習に取り組む。 ・起業家・経営者等の外部講師を招き、未来を切り拓く社会起業家の重要性を学ぶ。	ア ・連携団体や地域企業、行政などのステークホルダー(外部評価)による「社会的価値がある活動である」の肯定的回答率 70%以上を維持する。[R5 :76.5%] ・大学教授や中小企業診断士等と年3回以上連携し、経営アドバイザーとして生徒の活動を支援する。[R5 :3回] イ ・地域貢献として、介護教室や介護予防体操、施設交流など年1回以上実施する。[R5 :1回] ・連携団体や実習施設、行政などのステークホルダー(外部評価)による「社会的価値がある活動である」の肯定的回答率 70%以上を維持する。[R5 :79.5%] ウ ・商品知識を向上させるためにWeb 会議システムを活用して生産者(製造者)の声を聞く機会や調べ学習の時間を5回以上設ける。[R5 :6回] ・福祉施設との打ち合わせや施設利用者との交流に ICT を活用し、地域福祉活動を年1回以上行う。[R5 :2回]	ア ・地域企業と連携した取り組みやそれを元に課題探究型学習を実施し、外部評価アンケートでは「社会的価値がある活動である」の肯定的回答率が 82.8%であった。(◎) ・大学教授や中小企業診断士等と連携し、経営アドバイザーとしての支援活動を3回実施した。(○) イ ・地域貢献として、介護教室や介護予防体操、施設交流を1回実施した。多面的に生徒と地域の方との交流が深まった。(○) ・連携団体や実習施設、行政などのステークホルダーの外部評価では「社会的価値がある活動」に対し肯定的回答率が 82.8%であった。(○) ウ ・商品知識を向上させるために生産者(製造者)の声を聞く機会や調べ学習の時間を3回実施した。商品製造者と会議を重ね、商品の魅力を理解でき、販売実習で生かすことができた。(△) ・福祉施設との打ち合わせや施設利用者との交流に ICT を活用し、地域福祉活動を2回実施した。(○)
		ア ホームページ等を活用した最新学校情報の発信	ア ・体験入学や学校説明会を実施し中学生や保護者からの意見を取り入れ、より充実した説明会につなげる。また、中学校訪問やホームページ等で学校説明会情報を計画的に発信する。 ・教育活動の状況をホームページに掲載し、学校情報を数多く発信する。 ・メール配信システムを活用し保護者へ情報発信と周知を行う。	ア ・学校説明会累計参加者数 650 名以上 [R5 :524 名] ・ホームページの更新回数 300 回以上 [R5 :359 回] ・保護者へのメール等の配信回数 15 回以上 [R5 :18 回] イ ・施設実習の実施(1年生 12 日間・2年生 20 日間・3年生 20 日間) [R5 :1 年生 12 日間・2 年生 20 日間・3 年生 20 日間] ・ボランティア活動回数 5 回以上[R5 :7 回]	ア ・学校説明会を本年度は中学校教員対象を含め5回実施した。累計参加者数は 421 名であった。幅広く周知する方法を検討する必要がある。(△) ・ホームページの更新 362 回であった。(◎) ・行事だけではなくホームページと保護者メールとの併用で情報発信を 20 回行った。(○) イ ・施設実習を1年 12 日間、2年 20 日間、3年 20 日間、予定通り実施し、生徒の介護福祉に対する興味関心が高まった。(○) ・高齢者施設との介護福祉体操、福祉の日の啓発活動、校外ゴミ収集等、さまざまなボランティア活動を7回行った。(○)

府立淀商業高等学校

3	将来をみすえた自主性・自立性の育成	(1) 社会人基礎力の育成	ア 社会性豊かな生徒の育成 イ 生徒の主体性を育む生徒会活動を活性化させる ウ 部活動への参画	ア ・社会人基礎力を高めるために「遅刻をしない、時間を守る」「服装頭髪等の校則を厳守できる」など、基本的な生活習慣を確立する。 ・遅刻の実態調査と原因分析を行うことにより遅刻数の減少を図る。 ・「挨拶ができる」「正しい言葉遣いができる」など、社会性のある対人関係やコミュニケーションがスムーズに取れる生徒を育成する。 イ ・学校行事やボランティア活動など体験的活動の充実を図るとともに生徒の自主的な運営を支援する ウ ・体験入部や部活動紹介を実施し、部活動の意義等を機会あるごとに全生徒に伝え、部活動への入部率を上昇させる。	ア ・生徒向け学校教育自己診断「基本的な生活習慣が確立できている」の肯定的回答率 75%以上を維持する。[R 5 :76. 6%] ・遅刻者数年間 1, 300 名以下を維持する。[R 5 :1258 名] ・生徒向け学校教育自己診断における「先生や外部からのお客様に対して挨拶ができる」の肯定的回答率 80%以上を維持する[R:90. 8 %] イ ・生徒向け学校教育自己診断「生徒会活動・委員会活動・HR 活動は活発に行われている」の肯定的回答率 75%以上を維持する。[R 5 :87. 9%] ウ ・部 活 動 へ の 入 部 率 45% 以上をめざす[R 5 :34. 9%]	ア ・生活習慣の確立に取り組んだ。生徒向け学校教育自己診断「基本的な生活習慣が確立できている」の肯定的回答率は 76. 2%であった。(○) ・遅刻防止を含め指導を実施した結果、1, 119 名となり、減少傾向を継続している。(◎) ・生徒向け学校教育自己診断「挨拶ができる」の肯定的回答率 90. 0% (◎) イ ・特別活動への取組みに対して、生徒向け学校教育自己診断「生徒会活動・委員会活動・HR 活動は活発に行われている」の肯定的回答率 87. 0% (◎) ウ ・生徒の活動機会を増やすためにも部活動大阪モデルの活用を進め、入部率 40. 1%で昨年からは回復したが、今後も部活動の魅力を発信していくことが重要である。(△)
		(2) 自主性や自立性を育む進路指導	ア 希望進路実現のための家庭との連携 イ 就職希望者への取組み ウ 進学希望者への取組み	ア ・進路希望調査をもとに 3 年生全員を対象に個別面談を行い、保護者に適切に情報を提供し希望進路の把握に努める。 ・外部講師による講演会や相談会を実施し進路選択と進路実現に必要な知識を身につける。 イ ・就職に必要な情報を HR や教育懇談、就職面談をいかしてリアルタイムに発信する。 ・履歴書の作成指導や面接練習等を実施し、希望企業への内定をめざす。 ウ ・オープンキャンパス等への積極的な参加を勧め、大学・短大・専門学校担当者による進路ガイダンスを実施し、より適切な進学指導を行う。	ア ・進路についての保護者説明会を各学年 1 年に 1 回以上、実施する[R 5 : 3 回] ・進路に関する講演会開催 年 3 回以上 [R 5 : 3 回] イ ・面接練習開催 年 4 回以上[R 5 : 4 回] ・就職について、1 次内定率 70. 0%以上、最終的に 100%の内定獲得[R 5 : 1 次内定率 83. 8%、最終内定率 100%] ウ ・生徒や保護者に進路情報を提供するため校内外の進路ガイダンスを全学年で年に 3 回以上実施する。[R 5 : 3 回]	ア ・進路情報の提供や共有のため、外部講師も招き、保護者説明会を 3 回実施した。進路のための取組みに役立っている。(○) ・進路に関する講演会を 3 回実施した。進路選択に対する意識の向上を図った。(○) イ ・夏季休業前から、ハローワーク、進路指導部、学年が中心となり 6 回実施し進路実現の支援となった。(◎) ・組織的に就職指導を行い、1 次内定率 85. 4%、最終内定率 100%となった。(◎) ウ ・各学年、夏季休業中の大学等のオープンキャンパスへの参加を推進した。大学・短大・専門学校の講師による進路ガイダンスを 3 回実施した。(○)
4		豊かな心と健やかな体の育成	ア 人間尊重の精神と態度を養う。 イ いじめの未然防止と早期発見、早期対応 ウ 支援学校との校種間連携を通した人間性の醸成	ア・イ ・情報共有を図るとともに、個別の支援を必要とする生徒への包括的な支援体制を充実させる。 ・命の尊さを知るとともに、危機意識を持つことの重要性を知らせる。 ・いじめアンケートを各学期 1 回実施し生徒の実態把握に努め、いじめの未然防止に努める。 ・人権主担を中心としたいじめ防止対策委員会を開催し、早期発見、早期解決に努める。 ウ ・学校行事や生徒会活動などを通じて支援学校との交流を年間 1 回以上実施する。	ア・イ ・特別支援会議の開催（1 カ月に 1 回）[R 5 :10 回] ・「命の大切さ」講演会の実施 年 1 回以上 [R 5 : 1 回] ・生徒向け学校教育自己診断「先生は子供の悩みや相談に親身になって応じてくれる」の肯定的回答率 70%を維持する。[R 5 :77. 0%] ・有事以外にも各学期 1 回開催する。[R 5 : 3 回] ウ ・文化祭、卒業式での支援学校生徒との作品展示による交流 年 1 回以上[R 5 : 2 回]	ア・イ ・教育相談委員会と支援会議を 8 回開催し生徒の情報と支援方法について組織で共有できた。(◎) ・全学年対象で「命の大切さ」について講演会を 1 回実施した。(○) ・学校教育自己診断の「先生は子供の悩みや相談に親身になって応じてくれる」の肯定的回答率は 76. 7%であった。(○) ・いじめ防止対策委員会やいじめアンケートを各学期 1 回実施し、早期対応に努め、安心・安全な環境づくりに努めた。(○) ウ ・文化祭での支援学校生徒作品の展示や淀翔モールでの販売実習の実施や、文化交流を 2 回実施した。(○)
5	力と熱意を備えた教員と学校組織づくり	(1) 教職員研修の充実	ア 教職経験の少ない教員のスキルアップを目的とした研修の実施 イ 教職員研修の実施	ア ・教員の資質の向上を図る研修等の取組みを行い、スキルアップを図る。 イ ・防災訓練とともに安全点検（学期終了時）や救急処置講習会等を実施し、防災安全に努める。 ・各種の教職員研修を計画的に実施する。 ・教職員人権研修 ・体罰、暴力行為等防止研修 ・教職員コンプライアンス研修 ・特別支援に関する研修会	ア ・各学期 1 回以上の研修や授業観察の実施 [R 5 : 2 回] イ ・防災訓練年 2 回、救急処置講習会実施 年 1 回以上 [R 5 :防災訓練 2 回、救急処置 1 回] ・教職員人権研修実施 年 2 回以上[R 5 : 3 回] ・体罰、暴力行為等防止研修の実施 年 1 回以上[R 5 : 0 回] ・教職員コンプライアンス研修を開催 年 1 回以上[R 5 : 0 回] ・特別支援に関する研修会や連絡協議会の開催 各学期 1 回以上[R 5 : 2 回]	ア ・授業観察や助言等を研修の一環として実施したが、各学期での実施には至らなかった。(△) イ ・防災訓練 2 回、救急処置 1 回実施し、災害が起こった際の迅速な対応における知識と技術の向上を図った。(○) ・教職員人権研修 2 回実施した。(○) ・体罰、暴力行為等防止研修を 1 回実施。(○) ・コンプライアンス研修を 2 回実施し、職員会議や職員朝礼においてもたびたび注意喚起を行った。(○) ・教育相談委員会を 8 回開催した。(◎) スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを講師に、教職員向けの研修をそれぞれ 1 回実施した。
		(2) 教職員の働き方改革	ア 時間外勤務の縮減 イ 働きやすい職場環境作り	ア ・水曜日の一斉退庁日、長期休業中の学校閉庁日を活用し、また、部活動において週に 1 ～ 2 回の休養日を設定することで、時間外勤務の縮減を図る。 ・時間外勤務対象者の状況を常に把握し、身体的・精神的な負担度の確認に努める。 イ ・管理職の巡回や教職員からの報告により施設設備面での破損・故障箇所を把握し安全で働きやすい職場環境づくりをめざす。	ア ・1 か月の在校等時間 60 時間以内の教員数 90. 0% 以上[R 5 :84. 9% (45/53 名)] ・管理職による状況把握[R 5 :100%(8 / 8 名)] イ ・管理職による校内巡回 1 日 1 回以上実施	ア ・毎週水曜日を一斉退庁日として定め、時間外在校等時間の削減に努めた。時間外在校等時間 60 時間以内の教員割合は 82. 5%であった。今後、業務分担や業務の効率化の取り組みを進めたい。(△) ・管理職による 1 カ月 60 時間以上勤務者の状況把握は 100%。(○) イ ・管理職による 1 日 1 回校内巡視を実施し、学校内の状況把握に努めた。(○)